

Hachioji MAIL NEWS



輸送サービス労組八王子地本



ホームページ

2023.11.20

No.060



Twitter

八地申
第1号

団体交渉開催！

2023.11.17

『誰もが鉄道の安全を創り出し、
安心して働くことの出来る職場を求める申し入れ』

その4

4. 鹿や猪等の動物との衝撃による輸送障害が後を絶たない。社員とお客さまの安全確保と安定した輸送サービス提供のため原因と再発防止策を具体的に示すこと。また、これまでも団体交渉等で繰り返し再発防止に向けた議論をしているが、同事象の発生を根絶できない根本原因と実施している再発防止策の進捗状況を示すこと。

回答

これまで、データの分析、現地調査、忌避装置設置対策を実施している。なお、引き続き、必要な対策等を検討していく。

議論経過

※特徴点を記載

労働組合

会社担当者

- 動物による輸送障害の件数は？
 - すぐに数字は示せないが、「鹿ソニック」等の忌避装置を活用し、輸送障害は確実に減っている。
- 動物と衝撃した際、現場確認が困難でありながら、「確認してくれ」と指令に言われて対応に苦慮。運転再開まで時間を要したケースもある。
 - 降車しての現地確認が困難であることを指令にハッキリ伝えてほしい。他の対策を示す。
- 過去に「衝撃した熊を確認してきてくれ」と指令に言われて運転士が対応を断ったが、代わりに車掌に指示して確認させたケースがある。熊の生態を知らず、社員の責任感に甘えて現地確認をさせていいのか？
 - … (回答に詰まる)。異常時情報共有システムで現場の状況を指令に共有するとともに、指令に「行けない理由」をしっかりと伝えてもらいたい。
- 動物衝撃時の対応について、教育は策定されているのか？
 - 動物衝撃時に特化した教育は実施していないが、人身事故と同じ要領で対応してもらっている。
- 野生動物に関する教育は必要だと考えているか？
 - 特に教育をしていない。乗務員同士のコミュニケーションで対応方を共有してもらえたら。
- 職場の安全衛生委員会で「動物サミット」なる会議の存在を知得し、そこで野生動物衝撃時の対応方について議論したことがある。
 - … (回答に詰まる)。サービス品質改革室が担当していたが、昔から獣害対策を考えていたと聞いている。
- 人身事故発生時の対応方の教育はいいが、野生動物衝撃時の教育は必要だ。
 - 現状で教育は考えていないが、野生動物衝撃時の対応方等については乗務員区に共有していく。貴側の問題意識として受け止める。

ポイント

動物対策はハード面、ソフト面の両方で講じてこそ安全確保へ前進します。ソフト面の教育がおざなりであってはならず、社として対応指針の策定と教育を求めました！

